

令和5年10月31日

三浦市議会議長 出口 眞琴 様

議会運営委員会

委員長 神田 眞弓

令和5年度 議会運営委員会行政視察報告書

1. 視察日程

令和5年10月17日(火)・18日(水)

2. 視察地

宮城県柴田町

山形県長井市

3. 視察参加者

議会運営委員会

委員長 神田 眞弓

副委員長 小林 直樹

委員 石崎 遊太 下田 剛 森谷久一郎

長島満理子 草間 道治

議長 出口 眞琴

随 行 長島ひろみ

4. 視察事項

◇ 宮城県柴田町

議会改革について

◇ 山形県長井市

新庁舎建設後の議会機能について

・議場、委員会室等の設備について

・その他議会関係施設について

・施設を新しくしたことに伴う議事運営の変化など

【10月17日(火)】

(柴田町HPより)

■ 宮城県柴田町の概要

- ・ 面積 54.03平方キロメートル
- ・ 人口 36,863人(令和5年9月末)
- ・ 世帯数 16,390世帯(〃)
- ・ 産業別 第1次産業(2.3%) 第2次産業(32.7%)
第3次産業(65.0%)
- ・ 町制施行 31年4月1日

■ 町の概要

柴田町は、東北唯一の政令都市「仙台市」から南へ約25kmに位置しています。町の総面積は54.03平方キロメートル。北西部は標高200m前後の山々に囲まれた盆地です。蔵王連峰の雪解け水を満々とたたえる白石川が町の中心部を流れ、町の東南部を流れる阿武隈川と合流して、太平洋に注いでいます。町役場は、東経140°45'56"北緯38°03'22"に位置しています。

気候は温暖で、厳寒期でも月平均気温は氷点下になりません。酷暑期でも平均気温は21℃程度です。東北地方にありながら雪もほとんど降らず、四季を通じて過ごしやすい地域です。町を囲む丘陵は蔵王山から吹き下ろす北西風を遮り、また海からの風の影響をやわらげています。



産業構造の変化の中で、幹線交通網の整備に合わせてように食品関連や精密機器関連などの大手企業が町に進出し、現在では、宮城県内で第8位の製造品出荷額を誇る“工業の町”でもあります。

一方、観光資源も豊富で春の桜まつりや秋の菊人形まつりは毎年多くの観光客で賑わいます。特に毎年4月に開催される「さくらまつり」の頃には、白石川の「一目千本桜」や船岡城址公園の桜を一目みようと、県内外から20万人もの人々が訪れます。



柴田町は、藩政時代、伊達騒動で知られる原田甲斐と名門柴田家の城下町として栄えた「船岡」と、仙台藩直轄の穀倉地帯として、また奥州街道の64番目の宿場町として栄えた「槻木」の2つの町がさまざまな変遷を繰り返したのち、昭和31年に合併して誕生した町です。

太古の昔から続く、永い歴史につちかわれた柴田には、貝殻層が厚く人面土器でしられる上川名貝塚、県南地方最大規模を誇る縄文中期の深町貝塚や台遺跡をはじめ、大小さまざまな規模の遺構があります。また、藩政時代の貴重な歴史資料とともに往時の商家のたたずまいを色濃く残す「麴屋」など、町のところどころで昔の面影を偲ぶことができます。



宮城県柴田町

議会改革について

(議会懇談会について・ワールドカフェ方式の議員間討議について)

●視察目的

三浦市議会では、平成26年4月に議会基本条例を施行し、これまで「市民に開かれた、市民のための議会」を目指し、不断の努力を重ねてきました。そのような状況の中、議会報告会のあり方や参加者の減少などの幾つかの問題点があることから、更なる議会改革の必要性について先進議会である柴田町議会の議会改革を学び、新たな取組などを調査します。

●視察先対応者

進行・説明：大山議会事務局長

説明：柴田町議会

高橋たい子議長（挨拶）

平間奈緒美副議長

広沢 真議会運営委員長



●視察訪問先

柴田町役場



● 視察概要

■ 議会改革について

1. 議会懇談会について

ワールドカフェ方式での議員間討議について

柴田町議会では、2年ごとに柴田町議会基本条例の目的が達成しているかを議会運営委員会で検証しています。2年間のサイクルで①チェックシートによる評価→②評価結果をもとに今後2年の行動計画を作成→③議会アドバイザーからの評価→④評価結果と行動計画を公表→①へ を行っています。

柴田町議会の運営・政策サイクルは決算議会を起点として、全会一致で提言や附帯決議を町に提出→提言が達成されているかを検証→次の決算議会での提言に結びつける となっています。今後は、提言等が予算に反映できているかをチェックして、議会として予算の組み換えなどができるようにすることを目指しているそうです。

政策サイクルを回すために、決算審査、予算審査の際にワールドカフェ形式での議員間討議を行っています。議員間討議は予算（決算）書が議会に出された時点で1回、予算（決算）に関する質疑を行ってから1回行っています。議員間討議で出された意見は3つの常任委員会（分科会）に振り分け、議論をした後、全体会に戻されます。全体会で全会一致となったものを提言や附帯決議として提出しています。

- ・ワールドカフェ形式で討議を行う効果……相手を否定せず意見を聴いて積み上げていくことができる→取捨選択ではなく、全てを分科会に振り分けていく。
- ・これまで実現した提言……KHB（東日本放送）での情報発信、町民体育館の建設手法。

2. 反問権について

柴田町議会では、平成25年4月に柴田町議会基本条例が制定され、同年6月会議で初の反問が行われました。

- ・そのときの状況……どのタイミングで反問を行うかを決めていなかったため会議が止まった→総括的な質問の後、一問一答の質問に入ってから反問を行うことにした。町長の反論のようになっていたため、町長と交渉を行った。
- ・反問権を導入した効果……執行部の関心が上がった。

3. 議会懇談会について

柴田町議会では、議会の活動を町民に報告するとともに、議会や調整に対する意見・要望等を聴き、議会活動に反映させるため、毎年、①一般懇談会、②団体懇談会、③柴田高校との懇談会等を開催しています。概要は次のとおりです。

①一般懇談会

- ・全議員を3グループに分けた「議会懇談会実行委員会」が中心となり1～3年目の懇談会を開催、4年目は議会広報常任委員（若手議員が中心）が実行委員となる。



- ・コロナ禍を機にZoomを用いて開催をしたが、当初は回線が切れてファシリテーターが不在で行われるといったこともあった。経験を重ね、令和4年の3回目の開催ではスムーズに行うことができた。
- ・毎年、いわゆる議会が大好きな町民（自分の話を聞け、というタイプの方）が参加する状況があった。令和5年度の開催では対象者を子育て中の保護者に限定したため和やかに行うことができた。
- ・懇談会の前には、懇談のテーマに関わる事前の研修会を公開で行っている。

②団体懇談会

- ・3つの常任委員会がそれぞれの所管事項に沿ったテーマを設定し、関係する団体と懇談を行う。例）総務常任委員会……タクシー会社（会社に出向いて行う）、文教厚生常任委員会……校長先生方、産業建設常任委員会……水道関係事業者

③柴田高校との懇談会

- ・平成28年から、柴田高校生徒とワールドカフェ形式での懇談会を行っている。
- ・出された意見を反映→議場コンサート等が企画されたがコロナで中止となった。
- ・今年度は、懇談会実行委員、柴田高校生徒会、政治経済に関心のある生徒、町の若手職員が参加し、楽しく行うことができた。

議会懇談会に関する今後の課題は、一般懇談会の対象者をどうするかであるとのこと。今年度の開催結果からすると、5～6人が話しやすい（このくらい的人数だと全員が話すことができる）、ワールドカフェのような配席のほうがよい（対面だとどうしても発言力の強い人が出てしまう）とのこと。



■主な質疑応答

Q：議会基本条例の制定により通年制を導入しているが、導入の結果はどうか。

A：委員会は議長に申し出ることでいつでも開催できるため、非常に自由度が広がった。一方、通年制にしても議案の専決処分はなくなる。どうしても会議を開くとまがない時期がある。また、議会運営委員会が非常に忙しくなった。会議の回数が倍くらいになった。

Q：懇談会のファシリテーションのレベルが高いと感じるが、アドバイザーは。

A：青森大学の佐藤 淳先生に来ていただき、ファシリテーターをもらった。その後、議員がファシリテーターを担うことになったが、町の若手職員と一緒に佐藤先生から説明を受けている。講師に対する報酬は議会費で措置している。

Q：懇談会の傍聴はどうしているのか。

A：5年度については懇談会の傍聴はなかった。保護者向けに行ったので学校のメール配信でお知らせを行った。

Q：タブレットで使用しているアプリをお聞きしたい。

A：SideBooks、Googleのチャット、カレンダー、Workspace。Google Meetもあるが、Zoomのほうが使いやすい。Zoomは議会事務局で契約したアカウントを持っている。

Q：議員間討議（全体会）と全員協議会の違いは。

A：予算・決算に関する議論に議長と議会選出監査委員も入れるように

と考えた。一時期、休会にして全員協議会を開いたこともあったが、矛盾を感じ、審査のシステムの中に議員間討議を組み入れた。ただし、監査委員はまだ決算には参加できていない。

Q：懇談会参加者に関する課題への対応は。

A：自分の話を聞けと言ってくるような方は「説明が長い、もっと話をさせろ。説明は、分かる資料を作ればいいじゃないか」と言ってくる。懇談の時間を長くするなど、まだ毎年試行錯誤している。今年度は初めて対象を絞るに至ったが、参加者がなかなか集まらなかった。

Q：今後、一般懇談会の自由参加も考えているのか。

A：実行委員会で協議の結果、そのように決定されればそうなる。ただ、懇談会はガス抜き場ではないと考えている。



【10月18日(水)】

(長井市HPより)

■ 山形県長井市の概要

- ・ 面積 214.67平方キロメートル
- ・ 人口 24,969 (令和5年8月)
- ・ 世帯数 10,069世帯 (〃)
- ・ 産業別 第1次産業 (6.8%) 第2次産業 (37.9%)
 第3次産業 (55.3%)
- ・ 市制施行 昭和29年11月15日

■ 市の概要

本市の西部一帯は、越後山脈の主軸をなす朝日山系の険しい山岳地帯で、朝日、祝瓶などの高山がそびえており、東部は出羽丘陵地帯である。

この両山系の間を南から北に最上川が貫流し、朝日山系を源とする野川が市の中央部を流れ、また飯豊山系を源流とする白川は、市の南部で合流している。最上川流域と野川、白川両河川の下流一帯は平地をなし長井盆地を形作っている。

長井盆地は、北流する最上川に沿ってゆるく湾曲しながら南北に細長く伸びている。盆地の西側は花崗岩類で構成される朝日山塊の南半分にあたり、安部ヶ館山長井(1,055メートル)、柴倉山(1,263メートル)、三体山(1,256メートル)などを中心とする標高700～1,200メートルの山地である。水系は花崗岩地帯特有の格子状に発達し、急峻な山地形を作り出している。一方、盆地の東側は白鷹山地の南半分で、朝日山塊と同様に花崗岩類から成るが、標高は500メートル以下で、なだらかな丘陵性山容を呈している。また盆地の南側は標高300～500メートルの玉庭丘陵によって米沢盆地と境されている。

長井盆地は標高200～250メートルで西から東へゆるやかに傾斜している。盆地の西半最上川左岸には何段かの段丘が形成されているが、段丘崖は侵食されて不明瞭になっている場合が多い。



山形県長井市

新庁舎建設後の議会機能について

(議場、委員会室等の設備について、その他議会関係施設について)

●視察目的

三浦市議会では、「新庁舎建設等に関する検討会」を設置し、新庁舎建設に向け、現在、議会関連施設の面積や配置、機能等の検討を進めています。

今後、議場や会議室等の設備、その他議会関係施設について、また、施設を新しくしたことに伴う議事運営の変化など、今後の検討の参考として長井市新庁舎の視察と建設後の議会機能について調査します。

●視察先対応者

進 行：片倉議会事務局補佐

挨拶：鈴木富美子議長（歓迎の挨拶後、公務のため退席）

説明：長井市

吉川地域づくり会進化補佐

鈴木建設企画整備室長（兼）公共施設整備室長

●視察訪問先

長井市役所



● 視察概要

■ 新庁舎建設後の議会機能について

1. 議会関係施設について

別紙資料により、口頭での説明は割愛。

議会に関係する各施設（議場、議会図書室、控室等）を案内していただき、議会事務局職員及び担当職員への質疑を行いました。



2. 新庁舎全体について

3. 過去の経過について

長井市では、平成29年度から新庁舎の整備に係る事業を進め、令和3年5月に新庁舎が開庁しました。

以下のとおり概要の説明を受け、その後は実際に庁舎内を視察し、説明を受けました。

- ・ 新庁舎建設に至る経緯……古い庁舎を一度改修したが、防災拠点としての課題があった（最上川が氾濫して水に浸っても大丈夫なようにしたい）。また、庁舎機能が分散している状況があったことから新庁舎を建設することとなった。
- ・ 庁舎の形状……山形鉄道の鉄道用地が長井市の土地だったことから、この土地を利用し長い形状となった。また、山形鉄道の本社機能も同じ建物の中に入ることとなった。
- ・ 建設に当たって……財源は、熊本地震を機に創設された市町村役場機能緊急保全事業債を活用した。起債の条件で令和2年度末までに完成と決まっていたため、事業者の選定は県内事業者の指名競争入札により行った。

研修後は、長井市役所内を案内していただき、担当職員から説明を受けました。

4. その他（長井市遊びと学びの交流施設くるんと整備について、図書館の運営手法について）

長井市では、本年9月1日に遊びと学びの交流施設くるんとがグランドオープンしました。この施設は、市の図書館と子育て世代活動支援センターが一体となっています。この建設手法と施設概要、運営方法について説明を受け、質疑を行った後は、実際に施設を訪問して視察を行いました。



- ・くるんとについて……指定管理者によりくるんと全体の運営が行われている。屋内の遊び場やTSUTAYAの運営をしている会社であり、子供が興味を持つような本の陳列、子供のけがへの対応など民間のノウハウが生かされている。
そのほか、詳細は別冊資料のとおり。
- ・図書館について……現在の蔵書は11万冊、最大15万冊所蔵できるようになっている。

■主な質疑応答

（くるんとについて）

Q：図書館内の、親子で声を出して本を読むことができるスペースや読み聞かせのイベントなどについてお聞きしたい。

A：施設内では「声を出していいですよ」と言っている。施設の中央（子供向けの本などがあり賑やかなエリア）



から奥（郷土資料の棚など静かなエリア）まで、エリアを区切らず一体の空間としている。

土曜日には、おはなし会やボランティアによる読み聞かせが行われている。施設内にはボランティアの人が使えるボランティア室を設けている。

Q：指定管理者による運営だが、書籍の選定基準はどうなっているのか。

A：今までの図書館にいた司書をそのまま雇用している（雇用主は指定管理者に変わった）。書籍の選定の要綱はあるが、司書を中心に選定をしている。図書の予算は市の予算なので、市のチェックが入る。また、図書館要覧を議会に送付している。TSUTAYAの図書館で以前問題になった商業寄りの選定といったようなことはない。

Q：子育て世代活動支援センターの中に入っている子育て支援センターも指定管理なのか。

A：施設管理は指定管理者だが、支援センターは市で別のところに委託をしている。

Q：施設の整備手法は。

A：グンゼの工場があった土地を使っている。土地の所有、施設・外構の整備も全てグンゼである。







行政視察の成果について

宮城県柴田郡柴田町、山形県長井市行政視察を終えて

議会運営委員長 神田 眞弓

1. 宮城県柴田町

人口36,827人、面積54.03km²ののどかな町

このたびの研修では、議会改革について、議会懇談会、ワールドカフェ方式での議員間討議、反問権の運用を学ばせていただきました。

議会懇談会については、どこの議会でも同じ課題である、数人しか集まらないという状況があった。

3種類の懇談会のうち、一般懇談会はワールドカフェやワークショップ方式に変更し、議員と住民があるべき町の姿を描いて、対話で得られた意見を政策提言している。2つ目の団体懇談会は、各委員会の活動テーマに基づく団体を選定し、団体から寄せられた意見を議会として提言できるように活動している。3つ目の高校生との懇談会は、平成28年度から実施。若い世代が町政へ関心を持ってもらえるように、継続して開催している。

反問権については、これまで3回ほど町長より行われているが、成果としては示されていないのが現状である。今後の課題としては、現在は町長だけが行使しているが、議員としてもいつ反問権が行使されても対応できるようにすること。

議会アドバイザーとして青森大学の教授にご指導を頂きながら改革を進め、検証し、成果を出して、議員一人一人の意識が高いという印象を持ちました。当市としても、今後の検証に向けて、とても参考になりました。

お忙しい中、高橋議長はじめ平間副議長、広沢議員、議会事務局の方々に感謝申し上げます。

2. 山形県長井市

電車で田園風景を走って降りると、鉄道駅と一体となった全長170mもある全国初の庁舎に驚きました。

水のまち、けん玉のふるさと、市技としても長年愛されて、生産量日本一



を誇っているそうです。

市庁舎でも驚きましたが、その中でも本年8月にオープンした「くるんと」。グンゼの工場跡地に長井市とグンゼがPPPの手法により建設された、遊びと学びの交流施設。子育て支援事業は、子どもの一時預かりや育児相談など総合的な子育てサポート機能があり、妊娠期から子育て期にわたり、切れ目のない支援の充実、全天候対応のオールシーズン遊べる施設、図書館機能も居心地よく、ゆったりくつろげる家具を配置し、「第3の居場所」としての場を提供し、集客性のある施設を目指している。「すばらしい！」の一言でした。わが三浦市にもこのような場があればと、うらやましい、まさに理想の子育て環境であります。

今回も視察に当たり、お忙しい中、鈴木議長はじめ、議会事務局、建設課担当の皆さん、ありがとうございました。

議会運営委員会 行政視察 報告書

副委員長 小林 直樹

1. 宮城県柴田町 〈視察事項〉議会改革について

(1) 議員間討議と政策提言

- ① 決算審査と予算審査でワールド・カフェの手法を活用して、議員間討議を行っている。
- ② 議員から出された意見等については、3つの常任委員会に分けて議論をする。
- ③ その後、全議員で議論し、全会一致になった事項を政策提言書としてまとめ町長に提出している。
- ④ 意見交換と政策提言を行うことで、決算⇒提言⇒予算⇒監視という政策サイクルが確立した。

(2) 議会懇談会の開催

- ① 議会基本条例の規定に基づき、平成19年度に議会報告会を行った。
- ② 平成20年度に、一方的な報告ではなく住民との意見交換を重視する目的で、議会懇談会に変更した。
- ③ 「一般懇談会」「団体懇談会」「高校生との懇談会」という3種類の議会懇談会を開催している。



- ④住民、団体、生徒から寄せられた意見を議会活動に取り込むとともに、政策提言などにつなげている。

(3) 今後、参考にすべき事項

- ①議員間討議をすることによって予算・決算の審査が深まり、また、一致した事項を首長に提言できれば市民生活の向上が図れると思います。
- ②懇談会にしたことで、意見交換が十分にできるようになり有意義だと思います。

2. 山形県長井市 〈視察事項〉新庁舎建設後の議会機能について

(1) 新庁舎建設整備の基本方針

長井市の庁舎は全国で初めて鉄道駅と一体となった構造で、基本方針は、

- ①市民の安全と安心を守る庁舎
 - ②わかりやすく人に優しい庁舎
 - ③機能的で利便性の高い庁舎
 - ④交流とふれあいを生む親しみやすい庁舎
 - ⑤将来変化に対応する経済的な庁舎
 - ⑥環境配慮や立地特性を踏まえた庁舎
- です。

(2) 議場のデザインと機能

- ①床はフラットで席は対面式になっている。
- ②机と椅子は可動式で傍聴席下のスペースに収納でき、議場以外にも活用ができる。
- ③傍聴席入り口に車椅子用の昇降機が設置してある。

(3) 今後、参考にすべき事項

- ①「まちの顔」となるような、魅力的な庁舎にすることが必要だと思います。
- ②机と椅子が可動で収納ができ、議場以外にも使用できるのは機能的だと思います。

画像は長井市の議場です。



議会運営委員会 視察報告書

石崎 遊太

【宮城県柴田町】

柴田町議会は、『議会改革度調査2022』において、全国の市町村の中で総合8位に輝いた議会です。議会改革度調査とは、早稲田大学マニフェスト研究所の議会改革調査部会が発表する、アンケート回答に基づいた情報共有・住民参画・議会機能強化という3分野における取り組みを数値化し、議会改革度として順位化したものです。柴田町議会は同ランキングの議会機能強化分野において、堂々の全国1位となっています。本市のより良い議会運営のために大変参考になる議会であるという確信を抱きながら、視察先として選定させていただきました。



柴田町議会の優れた点は多々ありますが、特に素晴らしいと感じるポイントは、

- ①議会としての活動サイクルが明確化されていること
 - ②住民に開かれた議会を実現するための施策が充実していること
- この2点に尽きると思います。下記にそれぞれの施策内容を列挙（抜粋）した上で、所感を述べます。

～議会活動について～

- 2年ごとに柴田町議会基本条例の目的が達成されているかの検証プロセスが用意されている。（下記参照）
 - チェックシートを用い、全議員による段階評価・課題抽出を実施
 - 議会運営委員会において評価を決定（自己評価）
 - 自己評価に基づいて今後2年間で取り組む行動計画を作成
 - 議会アドバイザー（直近においては大学教授）による第三者評価を実施
 - 第三者評価に基づいて行動計画を確定・公表
- 『通年会期制』を導入することで、各種委員会の活動が活発化している。
- 『議員間討議』を前提とした審査スケジュールが確立されており、討議もワールド・カフェ形式で自由闊達な対話が行われている。
- 議員間討議において議員から出された意見等は、分科会や全体会を通じ

て提言書としてまとめられ、議長から町長へ提出される。

～住民に開かれた議会のための施策について～

- やりとりが一方通行になりがちだったかつての『議会報告会』を『議会懇談会』に改め、下記の3種類の形で実施。
 - 一般懇談会：一般住民を広く対象とし、身近なテーマを設定した上で行われる懇談会
 - 団体懇談会：委員会の活動テーマに基づいて選定した町内団体を対象とした懇談会
 - 高校生との懇談会：若い世代が議会や町政に関心を持ってもらえるよう、地元の柴田高校の生徒を対象とした懇談会
- 懇談会を行うにあたっては、1グループの人数やグラウンドルールについての設定をきめ細かく行い、一人ひとりの参加者が発言しやすい工夫が随所に見られる。
- 懇談会で出た意見は聴いて終わりにせず、常任委員会へ振り分けたものを各委員会ごとに検討する流れとなっている。
- 一般懇談会の実施に先立ち、事前にテーマに基づいた研修を議員研修会として開催。公開が原則となっており、議員だけではなく一般町民や町職員、近隣市町村議会議員なども参加している。
- 議会HPではGoogleカレンダーを活用して議会の行事等がお知らせされている他、町議会としてのSNSアカウント（Facebook、Instagram）が運用されている。
- 議員一人ひとりの30秒PR動画がYouTubeで公開されており、議会だよりからもQRコードで直接飛べるような工夫がなされている。

議会というある種の“チーム”としてどう動くべきなのか、そしてその動きをどうルーティーン化するかが本当によく練り上げられており、感銘を受けました。議員一人ひとりにとっての負担もかなり大きくなる上、手探りの状態でさまざまなご苦労もあったかと思えます。議員の年齢構成は18人中、70代が8人、60代が4人、50代が4人と、決して若い議員が多いとは言えない中で、これだけの議会改革を成し遂げられたことに、あらためて敬意を抱きます。二元代表制の一翼を担う議会としての信念を感じ、多くの刺激を受けました。

特に市民への報告会や懇談会の運用方法については、三浦市議会においても色々課題を感じている部分です。一方通行の企画になりがちのところ、発言者が偏ってしまうことなど、同じような運用面の難しさを感じながらも、

しっかりと解決に向けて仮説検証を繰り返している姿勢が印象的でした。

柴田議会運営の手法を形だけ模倣したところで、決してうまくはいかないと思います。その根底には数多くの試行錯誤のプロセスで醸成された、議会としての確固たる矜持があるに違いありません。私たちはその部分を噛み締めた上で、あらためて一つひとつの議会運営施策と向き合い、市民のための議会改革を考え続ける必要があると感じました。

【山形県長井市】

山形県長井市の新庁舎は、令和3年度5月にオープンしました。かつての旧庁舎は老朽化に加え、降水時浸水区域内に位置していることや、防災拠点施設として国が定めている基準に至っていなかったことなど、防災機能が不十分だった点に加え、市役所機能が6か所に分散している点など、数々の課題を抱えていたそうです。こうした課題に対応すべく、鉄道駅（山形鉄道長井駅）と一体となった全国初の庁舎が建てられました。今後三浦市新庁舎に関する検討を進める上でも、長井市の建設に向けたプロセスや手法、稼働後の状況などは参考にすべきポイントが多くありました。いくつか項目を分けて、所感を下記に整理したいと思います。

①立地・外観について

まずもって印象的だったのは、駅と庁舎を一体化するという、ありそうでなかった斬新なアイデアです。アクセスという面で市民にとっての利便性が高まることはもちろん、市のランドマークとしてこれほどわかりやすい市役所は珍しいでしょう。線路に沿った建築物であるという性質上、建物の全長は約170mという非常に長い作りとなっていますが、実際に端から端まで歩いてみても、体感として不便には感じなかったように思います。

②内部のデザインについて

市役所機能を有したとしての南棟と、まちなか交流施設・駅校舎としての機能を有した北棟に分かれています。中を歩いているとその区別がわからないくらい、連続性のある構造となっていました。上述したように長細い構造なのですが、柱や仕切りが少ないためか、非常に開放感がありました。交流施設では談話などができるスペースや誰でも弾けるピアノが設置されており、イベント会場としても使用が可能だそうです。紙おむつやおしり拭きなどが購入できる自販機が設置されていたりと、子育て世代への配慮も行われていました。

③議会関係施設について

議場をはじめとした議会関係施設は3階北部に集約されていきました。議場の机や椅子は可動式となっており、傍聴席下のスペースに収納できるため、議会以外の用途にも使用できるとのこと。実際に、災害時の避難所として議場を開放したケースもあったそうです。階段を上がる必要のある傍聴席には車椅子用昇降機が設置されており、市民や職員、議員にとってのバリアフリー対応も進んでいると感じました。議会はインターネット中継（ライブおよび直近1年間のアーカイブ）が行なわれており、発言者ごとに動画が再生できるため、視聴しやすかったです。

④構想から建設までのプロセスについて

構想から基本計画、実施設計に至るまでの過程に市民をしっかりと巻き込んでいる点が素晴らしいと感じました。庁内検討委員会とは別に市民検討委員会を立ち上げている他、市民アンケートでは各世代の市民1,000人にアンケートを取り、回答率は51.5%と非常に高かったそうです。そのほかにも市民意見箱の設置や、市民説明会の実施（計16回、延べ428人参加）など、積極的に市民の声に耳を傾けようとする姿勢が感じられました。

実際の基本計画書も非常にわかりやすく、他の選択肢を含めた検討プロセスに至るまで読み手目線でまとめられており、行政としてのきめ細かさが感じられました。特に④の市民の意見集約というプロセスは、三浦市としてももう少し強化すべき部分だと思います。庁舎だけでなく、他にも図書館や子育て支援施設（くるんと）など魅力的な施設を見学させていただきましたが、今回の視察の本旨からは離れてしまうため、ここでは割愛させていただきます。大変勉強になりました。

視察を終えて

下田 剛

初日は宮城県柴田町にて議会改革のお話を伺いました。

柴田町は「町」でありながら約37,000人と三浦市と同様の規模であります。

議会改革に関しましては議会懇談会、ワールドカフェ方式、反問権のこと等のお話です。

まずは説明をして頂いて、議会懇談会に関しては一般懇談会・団体懇談会・柴田高校との懇談会があります。一般懇談会の今年のテーマは、たまたま三浦市の「報告会」と同じで小中学生の保護者との懇談会でした。そこで話し合っただけで発表をするというところも、報告会では起こらないことだとも思います。団体懇談会は3つの常任委員会ごとに実施するというのがなるほどとも思いました。柴田高校との懇談会では、授業で政経を選択している生徒という点が発想なかったので新鮮でした。確かに一般生徒より政経を選択している生徒の方が、一般の生徒よりは意識があるというのは当然だと思いましたがそこに参加者を絞るというのは思い切ったことだと思いましたが、他の生徒も参加したいという話もあれば政治に興味を持つ生徒が増えるとも考えられるので、長い目で見たら良い話だと思えます。三浦市でも少しでもそういった中高生を増やしたいのであれば、すべきだと考えました。

次に、ワールドカフェ方式での議員間討議ですが、全体討議で全会一致にならない場合は全会一致になるように話を細かくしていくというものです。それも議員の代表が議員の前で発表していくという面白いものでした。

反問権の運用については、当初なかなか議員の想いが市長に伝わらずに何度か説明を市長に議長がしに伺ったりとしたようですが、少しずつそれも前に進んでいるようです。

質疑応答の時間は、2年毎に条例の目的が達成されているのかどうかの検証を実施したり、通年議会に対してのご苦勞。予算決算を全員で行なったりと個人としては羨ましく思いました。また、自身も質問をして、ICTの件でお尋ねいたしました。当初は失敗があったり戸惑っていたリモート会議であるが慣れてきたのか？またZOOMであるとアカウントは持っているのか？またアプリで良いアプリはあるか？等でした。



三浦市でも、あえてリモートにしたり少しずつ進めていかなければならないと考えていきたいと思えます。また、町議会で積極的なユーチューブやインスタグラムやフェイスブックの利用も良いと思えます。

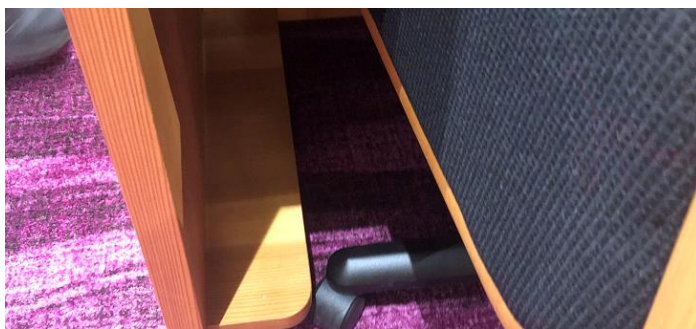
議場の見学もさせて頂きましたが、対面式でカメラの映るところが若干良くないというところをお話しして頂きましたが、綺麗だということもありましたが、椅子等も固定しておらず良い使用がされていると感じました。

また、総合的に考えて全国的にも何箇所かみているファシリテーターの佐藤淳氏がおりましたが、そういった視点もなければならぬとも思いました。

二日目は山形県長井市に伺いました。

人口規模は25,000人と少し三浦市と比べて小さいが、見学させて頂いた新庁舎はゆったりとした空間が広がっておりました。新庁舎と図書館等も近くになっており、三浦市の新庁舎とも重なる部分もあります（図書館等は見学致しましたが今回は議運の視察のため省略）。

やはりこちらの議場も対面方式であり、車椅子の移動も出来るように考えられております（ただし利用実績は現状なし）。机等を移動するための車輪が柴田町と違い、車輪が隠れていたというのは見た目が良かったです。議場のことでは、議員と理事者の距離が近いのは気になりました。



新庁舎では3年目なのでまだまだ手探りな状態ではあるが、導入すべきものや不要なもの等、今後も引き続き連携が取れたらと思えます。セキュリティーとして、タイムカード替わりでもあるカードキーはある程度の職員が開閉出来るようになっていて名前もわかるので、ある程度のセキュリティー効果はあると思えます。重ねて言うが5年以内の新庁舎を立てた所とは連携を取るべきだとも考えます。いろいろなものを取り入れてチャレンジして感想も共有出来るようにしていくべきです。



この二日間の視察を終えて、情報をどんどん取り入れて提案を出来るようにしていくのが今は必要なのかと考えます。

令和5年度三浦市議会 議会運営委員会行政視察報告

森谷 久一郎



1 宮城県柴田町

テーマ 議会改革について

○議会懇談会について

- ・一般懇談会、団体懇談会、高校生懇談会と参加対象を区分しながら、テーマ設定や開催方法を工夫して開催しており、三浦市が行っている議会報告会と比較して、より住民に寄り添う議会の姿勢が感じられるものとなっていると思った。

○ワールドカフェ方式での議員間討議について

- ・決算・予算審査の定例議会の際に、議会懇談会で市民から聴取した意見・要望を踏まえた提言や提言措置状況を提出し、より充実した決算・予算審査が行われていると感じた。
- ・このフローや具体的な進め方について、逐次、議会アドバイザーの評価・助言を受けており、効果的な取り組みと感じた。

○反問権の運用について

- ・議会質疑応答の活性化のためには有効と思うが、濫用の危険が伴うため、ガイドライン等を定めてから実施する必要があると感じた。

○議会施設見学

- ・議場は対面式で、かつ多目的利用にも活用できるフラットな配置で、実用性に優れていると感じた。
- ・議員控室は大部屋で会派毎ではなく、広く使えるメリットはあるが、各会派の独自性を確保するのに難点があるのではと感じた。

2 山形県長井市

テーマ 新庁舎建設後の議会機能について

○議会関係施設について

- ・各施設を見学した。
- ・議場は、対面式かつ段差のないフラットな構造で、議員席と理事者席との間隔が比較的近く、緊張感のある質疑応答が期待できると感じた。
- ・委員会室は、大部屋を2部屋に間仕切り可能になっている。4つの常任委員会がある長井市では、各議員が2つの常任委員会に所属しており、各委員会を日替わりで開催している。
- ・三浦市は2つの常任委員会だが、常任委員会構成の再検討や、今後建設される新庁舎での議会会議室の活用と委員会開催方法を再検討する必要があると感じた。

○新庁舎全体について（交流施設「くるんと」を含む）

- ・鉄道駅と一体となった市庁舎は斬新な取組みであり、構造的には細長いですが、市民サービス部門や総務部門等が適切に集約されている。
- ・PPP・PFI方式によらない従来型の事業で建設されたが、起債や補助金を活用して、無理のない事業費であり、三浦市も参考にすべきと感じた。
- ・交流施設「くるんと」は、利用者目線で、子どもから高齢者まで利用しやすい施設になっており、図書館・子育て世代活動支援センターとも何度も来館したくなるような魅力を備えた施設になっている。
- ・三浦市の交流施設新設事業においても、多々参考になる点があったが、施設規模や事業費の面で、長井市のように中々できないとは思われるが、可能なところを少しでも参考に反映できればと思った。

○過去の経緯について

- ・旧庁舎が最大7カ所、最終的に6カ所に分散していたのは、旧庁舎の老朽化と手狭さのためであり、新庁舎にすべて集約された。市内各地域に出張所は、元々なかったとのことであった。

3 全体を通して

今回の県外視察は、柴田町・長井市とも、三浦市が今後予定している交流施設・新庁舎建設の課題に大いに資するものがあった。

柴田町・長井市と諸条件の違いがあるものの、交流施設・新庁舎建設に反映可能な機能を導入できれば、市民にとっても、議会にとっても、また市の職員にとっても大きなメリットが期待できると思った。

議会運営委員会行政視察報告

長島 満理子

宮城県柴田町議会

議会改革について

柴田町議会は通年議会制をとっている。2年ごと、議会基本条例の目的が達成しているかを議会運営委員会で検証している。検証はチェックシートによる評価の実施は本市と変わらないが、議会アドバイザーによる第三者評価を実施している。

決算審査後に議員間討議を行い、全会一致で町長へ提言書を提出している。議員間討議は、ワールドカフェ形式で行っている。

このワールドカフェ形式で、議会懇談会も開催している。開催内容は、一般懇談会、団体懇談会、高校生との懇談である。

議員紹介など、ホームページ以外にもSNSを活用し議会の情報発信に取り組んでいる。

三浦市議会も、議会報告会を開催しているが、市の報告が長いので、報告は資料を見ればわかるものにし、懇談の時間を増やしていったらいいのかもしれない。そのためには、テーマをもっと市民寄りに考え、今必要な内容は何かをもっと具体的に考え、意見を抽出できる場になるように検証が必要と感じた。

議員間討議も懇談会もワールドカフェ形式で建設的な意見のもとに行っていて、今後取り入れてもいいと思う。ルールのある中での意見交換は、課題に対して有効的に取り組めていけるのではないかと感じた。

山形県長井市議会

新庁舎建設後の議会機能について

長井市役所は、鉄道駅と一体となった庁舎でした。市役所機能は6カ所に分散されていたが、フラワー長井線との連携で、市中心部と周辺地区を公共



交通で結ぶ「コンパクト・プラス・ネットワーク」の推進を図っている。庁舎内もオープンなスペースが設けられていた。駅から庁舎までの長さが約170mで駅・交流拠点・市役所と横に長い建設になっている。

今まで分散していた機能が1カ所にまとまり、市民も利用しやすくなったと思う。議場は対面式、議員控室は一部屋になっていた。

セキュリティーは時間で利用できないようになっていた。

また、PPPの手法により遊びと学びの交流施設「くるんと」が庁舎の隣に隣接されていた。「くるんと」には図書館、子育て世代支援センターが配置されて交流拠点として充実している施設となっていた。

図書館は、読み聞かせスペース、学習スペースなど充実しており、今後南下浦コミュニティセンターにも取り入れたいことが沢山あった。また子育て世代支援センターは、ファミリーサポートセンター機能や、屋内遊技場などここも子育て支援が充実していた。

少しの工夫と整備で、市民にやさしい施設や空間がつくられ、今後の三浦市新庁舎や子育て賃貸住宅にも取り入れてもらいたいことが多く、提案していかうと考える。

令和5年度 議会運営委員会行政視察報告

草間 道治

今回は、宮城県柴田町と山形県長井市に行政視察に行きました。

本市議会では、平成26年4月に議会基本条例を施行し、これまで「市民に開かれた、市民のための議会」を目指し、不断の努力を重ねてきましたが、議会報告会の在り方や参加者不足など課題も多々あることから、更なる議会改革の必要性を感じているところであります。

近年、議会基本条例制定から10年経過を機に、新たな議会改革に取り組んでいる自治体が増えており、今回、議会改革の先進的な取組をしている宮城県柴田町で「議会改革について」をテーマに研修を行いました。

柴田町の議会改革の取組では、2年ごとに議会基本条例の目的が達成されているかチェックシートや行動計画を策定し外部の議会アドバイザーの評価などを行い検証していること、ワールドカフェ方式の議員間討議を行い、各



議員から出された意見を否定するのではなく、各議員が意見の調整を行い全会一致になった政策を執行部に対し政策提言を行っていました。

また、これまでの議会報告会から、3種類の議会懇談会を開催していること、「一般懇談会」では、ワールドカフェ方式やワークショップ形式へと変更し一般市民との懇談会形式に変更して開催、「団体懇談会」では活動テーマに基づく団体を選定しての懇談会を開催や、「高校生との懇談会」では若い世代が議会・町政へ関心をもってもらえるよう継続して開催するなど大変参考になりました。

議長・副議長そして議運委員長さんの説明、大変有難うございました。

2日目の視察では、山形県長井市で「新庁舎建設後の議会機能について」をテーマに研修を行いました。

本市議会では、現在、新庁舎建設に向け、議会に「新庁舎建設等に関する検討会」を設置し検討を重ねていることから、令和4年4月に竣工式を行い5月に開庁した、「長井市の鉄道駅と一体となった全国初の庁舎」を視察してきました。

今回の視察で、検討会の会長として参考にしたかった、対面式の議場を視察出来たことは参考になりました、対面式の議場は、議長席以外はひな壇でないこと、議員席や執行部の席は平らなことや、テーブル、椅子などは傍聴席下のスペースに全てを収納でき、議場の多目的利用が可能であることなど、大変参考になりました。

また、市庁舎に隣接した場所に建設されていた「くるんと長井市遊びと学びの交流施設」には、天井高7mを超え開放的な施設内に図書館と子育て世代活動支援センターの二つの施設があり、多機能型図書館では居心地の良い“第3の場所”をコンセプトとして、壁や仕切りを設けない、開放的な空間。カウンターやソファなど変化に富んだ閲覧席。集中して仕事や作業ができるコワーキングコーナーなど機能が充実していました。

子育て世代活動支援センターについても、子育て支援センター機能・一時預かり機能・ファミリーサポートセンター機能が一か所にあることや、屋内遊戯場（あそびば）については遊具が充実していることや、無料で子供たちを遊ばせることが出来る施設が本当に素晴らしく感じました。本市にも建設したい施設であると感じました。

長井市の議会事務局はじめ建設担当職員のおかげでよい研修ができ、感謝いたします。

議会運営委員会 行政視察報告書

議長 出口 眞琴

1 日目 宮城県柴田郡柴田町

宮城県柴田町は、宮城県南部に位置し、土地面積54,03km²、人口は36,863人の町です。

議員定数は18名で、今回は柴田町の議会改革について報告いたします。



【議会活動の検証】

柴田町の議会改革に取り組む体制としては、議会運営委員会が議会基本条例に基づいて、その役割を担っている。柴田町における議会改革は、議会基本条例の規定をどのように実現していくか、2年に1回、検証を行っている。チェックシートを用いて行っているが、全議員から、それぞれの課題についてどのように達成してきたかということの評価をいただき、その全体の評価を議会運営委員会で協議して、議会としての評価を決定した上で、次の2年間のために、前の2年間で達成できなかったことや新たに課題となってきたことなどを、行動計画として決め、次の2年間で一つ一つ実現していくというようなサイクルをもって行っている。

【議会懇談会】

議会懇談会では、一般・団体懇談会をワールドカフェ方式により参加者が話しやすい場をつくり、意見を積み上げ集約。政策作成につなげている。テーマを参加者の関心が高いものに合わせるなど、活発な意見が出やすい雰囲気づくりに努めている。

地元の柴田高校との懇談会を開催し、若い世代が議会・町政に関心をもってもらえるよう毎年開催をしている。継続が重要です。

新型コロナウイルス感染拡大で一般・団体懇談会できない中、新たな形としてオンライン懇談会を開催した。

【議員間討議】

議員間討議は、町民との懇談会をワールドカフェ方式で実施している環境があることから、議員間討議についても同じようにワールドカフェ方式で実

施している。ワールドカフェ方式で行うことで、相手の話を否定せずに尊重することがルールとして定めているので、議員間で遠慮なく意見を出し合える、お互いに意見を聞きながら学び合える、刺激を受けて知識を深めようという努力もするというような相乗効果がある。

新型コロナウイルス感染拡大で、感染リスクを考え災害時で参集できない事を想定しオンラインによる委員会を開催した。

柴田町議会の主な取り組みですが、三浦市議会でも議会報告会を開催していますが、柴田町の特徴は「ワールドカフェ」を活用しているところであり、一方的な報告ということではなく、住民との意見交換を大事にするという事で懇談会と変更したとのことで、カフェにいるようなリラックスした雰囲気の中で、4～5人の少人数のグループに分かれ、参加者の組み合わせを変えながら、自由に話し合いをし、市民の皆さんにとって分かりやすく、市民の声を吸い上げ、三浦市議会でも参考にする価値があると思います。また、議員間の自由討議により事業等の論点を拾い上げ、課題を検討して、提言や要望にまとめ上げていくことは、参考にすべき事と思います。

2日目 山形県長井市

山形県長井市は、山形県の南部に位置し、土地面積214,67,km²、人口24,952人の市です。

議員定数は16名で、今回は長井市の新庁舎について報告いたします。

市役所と山形鉄道フラワー長井線の長井駅が1つの建物で繋がり、全国初となる「鉄道駅と一体となった庁舎」が大きな特徴です。



鉄骨鉄筋コンクリート造 3階建（一部4階建） 延床面積8,319.50m²
全長約170mの新庁舎には、南棟は市役所/北棟はまちなか交流施設・長井駅、202台駐車できる広い駐車場を完備しています。庁舎前には、25台分の思い

やり駐車場を設置しています。そのうち4台分のスペースは雨に濡れることなく乗り降りができるようになっています。

【議会関係】

議場は対面方式で、議員が議場中央に設けられた質問席から、市長や理事者に顔を向け質問するもので、緊張感を持った質問や議論ができるようにした。

傍聴席は40席で、庁舎玄関から議場まで車椅子のままでの移動が可能です。

議場の家具は傍聴席下のスペースに全て収納でき、廊下側は移動間仕切壁で開放できるため、議会以外の用途にも柔軟に対応可能であります。また、委員会室も講堂、会議等として利用可能です。

議員控室は一部屋をオープンで間仕切りも無く各議員が使用していますが、会派等を考えると三浦市議会には対応出来ないと考えます。

【庁舎内部機能】

柱や仕切りの無いオープンフロア、各階にミーティングスペースを設けている。

庁舎には重要な個人情報、個人の権利等に関する書類が多くあり、駅舎と一体であるため、閉庁日、夜間の出入管理に対し、徹底したセキュリティを整備している。防犯カメラの設置や認証カード等を導入し、入退室管理や夜間、閉庁時の管理を徹底し、セキュリティエリアを明確にすることで防犯機能を高めている。建設費および維持管理費について、必要な機能は十分に入れ込みつつも、市の将来の財政負担が過大にならないよう、過剰な建物面積と設備を有しない庁舎としています。

長井市役所の隣に位置する「くるんと」は、遊び場と図書館が一体となった施設で、幅広い世代の居場所となる、にぎわいや交流の拠点として、遊び・学び・育ち及び出逢いの場、子どもから大人まで、みんなの居場所として、にぎわいや交流の基地となる施設です。特に子育て世代には何度でも遊びに来られる場所になりますね。出来れば三浦市にも欲しい施設です。